

編集後記

この特別号の企画については、昨年4月の幹部会議で院長から発案があり、6月の同じく幹部会議で、10年目を迎えた科学院の記念事業の一環として記念シンポジウムの開催とならんで正式に位置づけられた。記念誌ワーキングチームが保健医療科学編集委員会内に設置されることとなり、第一回日の編集会議が開催されたのは8月8日であった。

当初は10年目の区切りという意図が大きかったように思われるが、内容としては科学院の発足から組織再編を経験するまでの9年間の記録を残すというものが中心であった。三院長座談会では、科学院発足時前後のエピソードが懐かしく語られる一方で、事業仕分への対応などでの並々ならぬ苦勞を感じとることができる。各部の記録では、この間の活動記録を残すために、再編直前に在籍していた部長の皆さんにまとめていただくようお願いした。ただ、すでに退職・異動された当時の部長・室長の方々に原稿をお願いすることになったり、また期間全体をまとめていただくため当時の室長の皆さんに整理していただいた部もある。新しい組織におけるそれぞれの重責を担いながら、過去の組織の活動をまとめていただくというご負担をおかけしたこと、お詫びするとともに厚くお礼を申し上げたい。記念シンポジウムでは、新しい組織体制の科学院への期待が諸先生方から提示されている。それに対する回答は、この特別号の中で示すことはできておらず、これからの具体的な活動で表現することになる。

二度の組織再編に挟まれた9年間、前後の再編が一体なんであったのかを評価できるのは少し先になるかもしれない。本号が、多少なりともそのための資料となれば幸いである。

(鈴木晃)